



# 年間予定 平成27(2015)年度

詳細は、当館ウェブサイト、チラシ、市民しんぶんなどで順次お知らせします。

学校歴史博物館 検索

## 展示

**短期展示** 4月9日(木)-4月21日(火)

**収蔵品展** 学校を飾った風景画

**企画展** 4月25日(土)-6月30日(水)

日本画開拓の時代 -明治を生きた京の画家-

**企画展** 7月4日(土)-10月6日(火)

戦争と学校 -戦後70年をむかえて-

**企画展** 10月10日(土)-12月8日(火)

近代京都画壇の名品にみる 日本画 余白の美



上村松篁《春の歌》 昭和14(1939)年 松伯美術館蔵 (後期展示)  
山口翠峰《麗視》 昭和37(1962)年 洛央小学校蔵 (元格致小学校蔵)

**企画展** 12月12日(土)-

平成28年3月29日(火)

京都における特別支援教育のあゆみ

## 催し ※参加申込が必要です。

子ども体験教室(小学生対象)

### 冬休み開催

平成27年12月20日(日)

午前10時-12時・午後2時-4時(いずれか選択)

親子で風作りに挑戦!(仮)

※小学生と保護者対象

### 春休み開催予定

平成28年3月19日(土)・3月20日(日)

(いずれか選択)

春休み子ども体験教室

※小学生対象・詳細はHP等で随時更新

平成27年10月20日(火)午後2時-3時30分

講演会

「余白」の文化

-日本画の空間表現について-

講師: 上村 淳之(当館館長, 日本画家)

(日時未定・詳細はHP等で随時更新)

午後2時-3時30分

講演会

「特別支援教育に

「教育の本質」を探る(仮)」

講師: 和崎 光太郎(当館学芸員)

※その他企画展のテーマに沿った講演会を開催予定

企画展関連講演会

第3【火】午後2時-3時(8月を除く)

上村淳之館長談話室

【月】午後2時-4時

唱歌・童話教室

【火】午前10時-12時30分

日本画教室(火曜・午前)

【火】午後2時-4時30分

日本画教室(火曜・午後)

【木】午後2時-4時

初級者のための合唱教室

11月27日・12月4日・12月11日

【毎金曜】午前10時-11時30分

古文書を読む

※今年度より年3回開講(9月・11月・2月)

【金】午後2時-4時

描いてみよう!日本画

2月頃開催予定

日本刺繍教室



京都市学校歴史博物館だより

# 学歴博しんぶん



Vol. 30

発行:平成27年9月  
京都市学校歴史博物館

秋の企画展

近代京都画壇の名品にみる

## 日本画 余白の美

平成27(2015)年10月10日(土)-12月8日(火)

◆前期:10月10日(土)-11月10日(火)◆後期:11月12日(木)-12月8日(火)



上村松篁《鷺鷥》 昭和40年(1965) 松伯美術館蔵



西山翠峰《雨餘》(前期展示) 昭和27年(1952)頃 木下美術館蔵

日本美術の歴史の中で、画家たちが大切にしてきたことがあります。それは「余白」に詩情を込めるということです。背景を細密に描きこみ科学的な目で空間を再現することが多かった西洋の表現とは異なり、日本の絵画は「描かない」余白に大きな意味を込め、空間の「遠さ」や「広がり」を表現します。それが日本画独特の詩情を生み、鑑賞者は吸い込まれるように絵の世界に誘われるのです。この展覧会では「余白の美」をテーマに近代の日本画を紹介し、日本画が織り成す空間の美しさを改めて見直します。【学芸員:森 光彦】

冬の企画展

## 京都における特別支援教育のあゆみ

平成27(2015)年12月12日(土)-平成28(2016)年3月29日(火)

日本における特別支援教育は、明治7(1875)年頃に京都の小学校教師 古河太四郎が聾教育を開始したのがその始まりとされます。その後には京都盲聾院が設置され、明治末期には市の小学校で精神遅滞児(せいしんちたいじ)教育が始まります。戦後には、昭和33(1958)年の桃山小学校呉竹分校(現呉竹総合支援学校)など各地に「養護学校」が誕生します。

このように特別支援教育は、時代によってその呼び方だけでなく、制度や教育内容など、様々なことが遷り変わる中で発展してきたのです。

現在京都市では、障害種別を超えた総合制・地域制の養護学校が開校され、「総合育成支援教育」という独自の取組がなされています。本展では、その歴史的なあゆみを様々な史料を通してとります。

【学芸員:和崎 光太郎】



京都會館での呉竹養護学校(現呉竹総合支援学校) 昭和45(1970)年 音楽発表会

## 京都市学校歴史博物館

〒600-8044

京都市下京区御幸町通仏光寺下る橘町437

TEL:075-344-1305 FAX:075-344-1327

http://kyo-gakurehaku.jp/

☒ rekihaku-jigyuu@edu.city.kyoto.jp

当館は、京都の学校の歴史に関する資料の保存・研究・展示をすすめる博物館です。正門・石塀は、国登録有形文化財。



京都市学校歴史博物館  
Kyoto Municipal Museum of School History

**開館時間** 午前9時 - 午後5時(入館は4時30分まで)

**休館日** 水曜日(祝日の場合は翌平日)、12月28日 - 1月4日

**入館料** 一般200円(160円)、小・中・高生100円(80円)

※( )内は20名以上の団体料金

※京都市内の小・中学生は土・日曜日の入館無料

**交通案内**  
◆阪急電車「河原町」下車 徒歩約10分 10番出口より南西へ  
◆地下鉄烏丸線「四条」下車 徒歩約12分 5番出口より東へ  
◆京阪電車「祇園四条」下車 徒歩約15分 3番出口より南西へ  
◆市バス「四条河原町」下車 徒歩約10分 南西へ  
◆市バス「河原町松原」下車 徒歩約5分 北西へ  
※駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。



※正門(御幸町通側)からお入り下さい。

## 平成26年度来館者数が過去最多になりました!!

当館は、日本唯一の学校歴史博物館として平成10年11月に開館以来、様々な取組を重ねてまいりました。その結果、昨年度は過去最高の入館者数を記録する事ができました。これは、ご来館のお客様、貴重な資料や作品を寄贈・貸出いただいた方々、ボランティアの皆様方のご協力の賜物と深く感謝申し上げます。これからも、京都市民の貴重な財産を受け継ぎ、発信する博物館として一層努力いたしますので、皆さまご来館を心よりお待ちしております。

事務局長 脇野 誠  
事業課長 大西 均





# 名品この一点「近代京都画壇の名品にみる 日本画 余白の美」

(次回展示作品紹介)

毎回名品を多岐にわたって紹介する当館企画展。次回いちばんの見どころは?



## 上村松篁《芦》昭和63(1988)年 松柏美術館蔵

とても静かで、穏やかな水辺の景色です。辺りは水気を含んだ空気に満ち、そこへ太陽の光が当たって、柔らかな明るさに包まれています。そこへ、つがいのコガモが水面をすーっと泳いでいきます。何気ない自然の一場面を、素直に、暖かなまなざしでとらえて描いた作品です。

作者の上村松篁は、近代を代表する花鳥画家として、約80年にわたって花鳥を描き続けました。この作品では白と黒を基調にした水墨画に挑んでいます。芦の表現に用いられた丁寧な墨の濃淡やにじみ、その周囲に施されたほかしなどによって、全体を取り巻くしっとりとした空気、そこへふりそそぐ光が描き出され、墨のもつ魅力が存分に味わえる名品です。

また本作は、画面上に芦と二羽のコガモのみを配置するという極めて洗練された構図となっています。背景は余白となって、水面が画面全体に広がっていくようです。この余白によって、鑑賞者は吸い込まれるように画面に没入でき、自然をより身近に感じることができるのです。松篁は、「自然との対話」を楽しむことを大事にした作家でした。

【学芸員: 森 光彦】



# 人気講座「古文書を読む」年2回⇒年3回開講へ!!

歴史学者・京都造形芸術大学教授の五島 邦治先生にご教授いただき、京都の歴史を古文書で読み解く講座「古文書を読む」。初心者の方にも非常にわかりやすく、京都に関する様々な文書を先生が教材に選んでくださることから、毎回定員を大幅に超えるお申込みをいただく当館の大人気講座です。少しでも多くの方のご希望にお応えしたいという願いから、五島先生の多大なるご協力の下、今年度より9月・11月・2月の年3回開講が実現する運びとなりました!! 皆様、どうぞ奮ってご応募くださいませ!

【担当: 土井】



# 「こんにちは、市民学芸員です」

市民学芸員の「日誌」から、ある日の館内の様子をご紹介します。

日誌では、市民学芸員の皆さんがその日に気づかれたことを自由に書いていただき、当館スタッフとやり取りしています。

## 7/6(月)企画展

### 「戦争と学校 -戦後70年をむかえて-」にまつわるお話

今朝入館されたご夫婦、ご主人の恩師が写真に写っておられたそうで、大変なつかしく喜んでおられました。石盤がご自宅にあると…物を大事にされる世代の方だということをご改めしていました。【市民学芸員K】



なごな 昭和19(1944)年 生祥国民学校 学童集団 昭和三十(1945)年 津島国民学校

## 歓迎! 団体観覧

お客さまの人数・目的・学年などのニーズに合わせて、オリジナルの団体観覧メニューをご提案します。



## 募集! 市民学芸員

「市民学芸員」として、当館でご活動いただける新しいメンバーを募集中! 詳細はどうぞお気軽にお問い合わせください。



歴博には【英語版】解説書もあるんだよ!



# 世界的指揮者 佐渡裕さんがご来館!!

京都ご出身の国際指揮者 佐渡 裕さんが、「唱歌・童謡教室」に突然ご登場!! その瞬間、会場は「むかし乙女」の大歓声に包まれました。佐渡さんとご縁がある講師、中谷 幸治先生のこの演出は大成功でした。当教室に参加をされているご両親と一緒に、佐渡さんも唱歌や童謡を歌われました。最後に「すてきな歌 元気な声 ありがとう!」のメッセージをいただきました。本当にありがとうございました!!

【担当: 萩原】



# 学歴博日記 平成27(2015)年 前半期

京都市学校歴史博物館での催しの様子をご紹介します。たくさんの皆様のご参加をお待ちしております!

7月3日(金) 京都市立洛央小学校3年生のみなさんご来館

## 目を輝かせる子どもたち

3年生は校区の今と昔について学習するために、学校歴史博物館を訪れました。石盤体験では、石盤を使って昔の仮名遣いで文字を書きました。「始めは書きにくくてうまく書けなかったけど、だんだんと上手になれるようになって嬉しかったです。」「『すみくわ』は『すいか』と読むと知ってびっくりしました。」など目を輝かせて話していました。このように、見学や体験を通して昔の学校の様子を学習することができました。

3年生担任の亀山 侑扶先生にご執筆いただきました。 どうもありがとうございました!



# 夏休み子ども体験教室



7/18

## 明治の小学校 書写教室 (担当: 萩原)

この教室では、昔(明治時代)の小学校の書道の授業を体験します。対象は小学生で、講師は京都市小学校書写教育研究会の先生方です。千字文(お手本)に書かれている筆文字をしっかりと見ながら、力強く半紙をなぞる高学年の子供たち。学校でお習字を習っていない1年生、2年生は、先生方や保護者に見守られて挑戦! 仕上げは全員、好きな文字をうちに書きました。余白は、朱色で自分の名前の一文字を四角く囲んだ印を入れて完成! 世界にひとつしかないうちを、満足げにおおいでしました。



7/19

## 博物館たんけんたい (担当: 土井)

1日目で博物館探検 ②理科工作 ③石盤・石筆の3つを体験できてしまう、「博物館たんけんたい!」限られた時間の中で子どもたちは展示室内をキョロキョロ、石盤にカリカリ、今年の理科工作「糸でんわ」でもしゅ〜!! わくわくいっぱい体験に包まれた。本当に楽しい時間でした。さらに今年度はたんけんたいにご参加くださった皆様限定イベントとして、「スタンプラリー」を実施! あと2回歴博へご来館いただければ、オリジナルグッズをプレゼント♪という新企画です。さて、来年度は? ご期待ください!



7/25

## おもちゃの手作り教室 (担当: 小澤)

真夏の日差しが輝くまさに夏真っ盛りの中、京都市小学校図画工作教育研究会の先生方を講師に迎えた「おもちゃの手作り教室」に、元気いっぱいの小学生128人が参加していました。牛乳パック、紙コップ、ストロー…身近なものを使い、時間いっぱいまで工夫してユニークでかわいい動くおもちゃを作りました。「何に見える?」の問いに発想力豊かな子どもたちからは様々な答えが飛び出します。いつもの学校とは一味違い、初めての先生や友達と作る工作は、夏のひとひかりの思い出になったことでしょう。かつて小学校だった校舎も喜んで子どもたちを見守っている様でした。



7/26

## にほん画に挑戦! (担当: 山内)

今年は琳派400年の節目の年で話題となっていますが、「日本画に挑戦!」でも今年は「杜若」がモチーフとなりました。子どもたちは最初に山下山人先生(日本画家)から伊勢物語を題材にした尾形光琳や酒井抱一などの杜若の作品や琳派についてのお話を聴き、一日目は墨を使っておぼろづかい、二日目には杜若の描き方を学び、最後は顔彩を使って色の濃淡を上手に使い分けながら、うちわに生き生きとした作品を仕上げました。